

離任挨拶

ダニエル・メンゲ 研究機関研究員



私は、ICREA研究機関研究員を2018年5月末で退職し、6月1日よりケニア農畜産業研究機構（KALRO）で研究員として働くことになりました。農国センターには、大学院生および研究員として合計7年間以上在籍しましたが、皆様からのサポート、励まし、ご指導をたくさん頂き、本当に楽しく充実した日々を過ごすことが出来ました。皆様からのご支援のおかげで私は様々な課題を克服し、担当した研究プロジェクトを進めることが出来ました。農国センターにおける素晴らしい経験を生涯忘れることは無いでしょう。私は母国で研究者として働くことを楽しみにしています。これは、私にとって新しい挑戦であり、私のキャリアをより豊かなものにしてくれるものと期待しています。今後も皆様とお会いし、一緒に仕事をする機会は多くあると思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

略歴 1985年生まれ。2008年12月ケニヤッタ大学理学部卒業、2010年4月文部科学省奨学金留学生として来日、2016年3月名古屋大学大学院生命農学研究科より博士（農学）取得、名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究機関研究員を経て、2018年6月よりケニア農畜産業研究機構研究員。

学術雑誌「農学国際協力」Vol.16のご案内

(<https://icrea.agr.nagoya-u.ac.jp/jpn/journal/backnumber.html>)

本号では、京都大学名誉教授の田中先生に「農学国際協力の30年を綴る」と題した巻頭言をご執筆頂きました。また、総説記事として、国連大学の塚本先生、東京農業大学の志和地先生に、「持続可能な開発」および「国際農業開発分野の人材育成」に関する記事をそれぞれご寄稿頂いています。原著論文、ワーキングペーパー、フィールドレポートでは、バングラデシュやコロンビア、ケニア、タイにおける実践的な研究成果を掲載しています。さらに、国際人材として「学生主体の国際プログラム」や「農業・農村開発コンサルタント」に関わる記事を、またオピニオンでは「途上国農業分野の開発協力」に対するご意見を紹介しています。是非ご一読を！

（編集幹事 犬飼義明）



訃報

東京大学大学院農学生命科学研究科教授（名古屋大学名誉教授）で、元農学国際教育協力研究センター教授の前多敬一郎先生が、2018年2月3日にご逝去されました。

前多先生は、1985年より、名古屋大学農学部において助手を皮切りに講師、助教授、教授を経て、2010年に農学国際教育協力研究センター（現農学国際教育研究センター以下、農国センター）に教授として赴任され、その後、2012年に東京大学に赴任されました。同先生は、国内外で共同研究を積極的に展開し、家畜生殖科学の基礎研究を推進し、その成果を応用し、家畜におけるさまざまな繁殖障害の治療法を開発されました。さらに、各種学会活動を通じ、国際的に、繁殖生物学あるいは内分泌学の発展に尽くされました。また、留学生を含む学生の教育に熱心に取り組み、多くの優秀な人材を輩出し続けました。農国センターが発行している「農学国際協力」の発刊に主導的な役割を果たされました。

オープンセミナー（2017年12月～2018年5月）

回数	日時	テーマ	講師	所属
2017年度 第3回	2018年 1月20日	天然ゴムにおける日系企業の活動	小田部 荘祐	大塚化学株式会社 化学品事業本部 グローバルソリューション部 専任課長